

「独ソ戦勃発と南部仮印進駐」関係年表

1902	1. 30 日英同盟調印	1941	6. 5 海軍第一委「海軍ノ採ルヘキ態度」
1904	2. 10 露に宣戦布告。日露戦争始まる		6. 6 大島大使から「独ソ開戦必至」電届く ◆陸海軍「南方施策要綱」を決定
1905	9. 5 ポーツマスで日露講和条約調印		6. 11 連絡会議、蘭印回答を不満とし芳沢 謙吉特使の引き揚げ決定
1914	7. 28 第1次世界大戦始まる		6. 12 連絡会議「南部仮印進駐方針」決定
1918	11. 11 ドイツ降伏。第1次大戦終る		6. 16 山下奉文中将に「独ソ開戦は数日後」
1919	6. 18 戦利品の独潜水艦7隻、横須賀回航 6. 28 ベルサイユ講和条約調印		6. 21 ハル、対日回答と松岡忌避の口上書
1921	12. 23 日英同盟廃棄		6. 22 独軍、ソ連に侵攻、独ソ戦始まる
1922	2. 6 ワシントン会議で海軍軍縮条約調印		6. 24 陸軍、南部仮印進駐の第25軍編成
1924	7. 22 独カナリス少佐、潜水艦指導に来日		6. 28 連絡会議「情勢ノ推移ニ伴フ国策要 綱」採択(対ソ戦準備・南部仮印進駐)
1930	4. 22 ロンドン会議で海軍軍縮条約調印		6. 30 オット大使、日本の対ソ参戦要請
1931	9. 18 柳条湖で満鉄爆破。満州事変始まる		7. 2 御前会議「帝国国策要綱」を決定
1932	3. 1 满州建国宣言 5. 15 五・一五事件。犬養毅首相射殺される		7. 5 陸軍、防衛総司令部を新設◆海軍局長 会議で南部仮印進駐に反対続出
1933	1. 30 ヒトラー、独首相に就任 3. 4 米第32代大統領にルーズベルト就任 3. 27 日本、国際連盟を脱退		7. 7 「関東軍特種演習」の第1次動員発令◆ 米軍、北大西洋のアイスランド進駐
1936	2. 26 二・二六事件 11. 26 日独防共協定調印		7. 11 独軍、スマレンスク攻防戦
1937	7. 7 蘆溝橋事件勃発。支那事変始まる		7. 14 仮ビシー政府と南部仮印進駐交渉
1939	5. 11 満蒙国境でノモンハン事件起る 7. 26 米、日米通商条約の廃棄を通告 8. 23 独ソ不可侵条約調印 9. 1 第2次世界大戦始まる		7. 16 近衛、松岡罷免のため内閣総辞職
1940	3. 30 汪兆銘の国民政府、南京に成立 6. 22 フランス降伏、独仏休戦協定に調印 7. 22 第2次近衛内閣成立。外相松岡洋右、 陸相東条英機、海相は吉田善吾 9. 17 ヒトラー、英本土上陸作戦を断念 9. 23 日本軍、北部仮印に武力進駐 9. 25 米、日本の外交暗号解読 9. 26 米、屑鉄の対日輸出を全面禁止 9. 27 日独伊三国同盟、ベルリンで調印 11. 5 米ルーズベルト大統領三選される 11. 15 海軍、政策立案の第一委員会組織 12. 18 ヒトラー、対ソ開戦準備を命令		7. 18 第3次近衛内閣。外相に豊田貞次郎 7. 21 仮、日本軍の南部仮印進駐を受諾 7. 23 第25軍に南部仮印進駐を発令 7. 25 米、在米日本資産を凍結(英も26日資 産凍結、蘭印は28日石油協定を停止)
1941	3. 12 松岡外相、独伊ソ訪問に出発 4. 13 日ソ中立条約、モスクワで調印 4. 18 野村吉三郎駐米大使から「日米諒解 案」の電報。日米交渉始まる 4. 21 大島浩駐独大使から「独ソ緊迫」電 4. 30 ヒトラー、対ソ攻撃開始日を5月25 日から6月22日に変更 5. 2 ブルゲ「独ソ開戦の可能性高し」急電 5. 6 スターリン、ソ連首相に就任 5. 13 駐独武官から「独ソ開戦決定的」電 5. 15 参謀本部「独ソ早期開戦なし」と結論 5. 28 松岡外相「独ソ戦回避希望」を打電	1942	7. 18 東条英機内閣発足◆ブルゲ逮捕 11. 26 ハル、野村に「ハル・ノート」手交
		1945	12. 4 独ソモスクワ攻撃挫折、敗走始まる 12. 8 真珠湾攻撃。太平洋戦争始まる
		1946	11. 7 ブルゲの死刑執行 2. 4 米英ソ三国首脳、ヤルタ会談。ソ連は 独降伏後、対日参戦の秘密協定 5. 7 独、連合軍に無条件降伏 8. 8 ソ連、対日宣戦布告。満州から侵攻 8. 15 敗戦 12. 16 近衛、戦犯に指名され自殺 6. 27 松岡、東大病院で死去。66歳